

消防団活動を通して

女性消防団員として活躍されている佐藤敬子さんに日頃の消防団員としての活動や防災に関するお話をお伺いしました。

近年私たちはどれほど自然災害の威力を見聞きしてきたでしょうか。未曾有の出来事に心が痛みます。

ところで、本市に消防団という組織があることは多くの方がご存知だと思います。歴史があり、地域に密着した活動をしている29の分団です。もう一つ、30分団という女性だけの組織はご存知でしょうか。

平成17年に市女性消防部（定数15名）として発足し、平成24年から市女性消防団として活動しています。入団した動機や立場はそれぞれですが、私の場合防災活動へのきっかけは、阪神淡路大震災でした。焦土化した映像は、

現実を見失う程衝撃的なものでした。

防災のための安全安心な地域作りは、私たち30の分団の活動や、行政・自主防災等との連携であり、防災に対する知識や情報の啓発を地道に続けていくことだと思います。特に30分団が春と秋に行っている一人暮らし高齢者宅への訪問は、防災啓発の大きな役割であると思っています。

皆様方には、広報誌「纏（まとい）」をご高覧頂き、消防団活動へのご理解と更なる防災への関心を持っていただければ幸いです。

お知らせ

ハーモニー写真展に参加しませんか

男女が家庭、職場、地域などで、性別にこだわることなくいきいきと活動する姿、男女共同参画をイメージする写真を募集しています。応募いただいた写真はハーモニーフェスタ2018の会場と男女共同参画センターで展示します。

○募集内容 作品は自作で未発表のもの。肖像権・プライバシー等問題のないものに限り、サービスサイズ（Lサイズ）から六切までのサイズでカラー、モノクロいずれも可。

○応募方法 プリントした写真を郵送又はデータをメールで送信（返却できません）。

※メールで応募される方は、メールの件名に「ハーモニー写真展」と入力し送信してください。また、不着防止のため、応募先まで連絡をいただきますようお願いいたします。

○応募先 男女共同参画センター（下記参照）

○応募締切 9月28日（金）

11月は男女共同参画強調月間です

○ハーモニーフェスタ2018

日時：11/3（土）午前9時から午後3時30分まで
場所：ひたちなか市総合体育館サブアリーナ
内容：各団体による展示など

○ハーモニーひたちなかフォーラム

日時：11/25（日）午後2時から
場所：ワークプラザ勝田大会議室
内容：男女共同参画推進事業所表彰
男女共同参画キャッチフレーズ表彰
講演会
「自立した幸せな生き方
～男と女 しなやかに楽しく生きる～」
講師：石蔵 文信さん
（大阪大学人間科学研究科
未来共創センター招へい教授）

応募・問い合わせは男女共同参画センターまで
〒312-0018 ひたちなか市笹野町2丁目8番2号
TEL&FAX 029-354-0167 E-mail danjo282@juno.ocn.ne.jp



(K・M)

私の夫はタバコを吸わない。父もそうであったので、普段の生活で灰皿の出番はなかった。夫は幼い頃から扁桃腺が弱く、タバコの煙は特に苦手だった。大きくなってマージャンをやってみたくて友人と卓を囲んだが、タバコの煙に咳込み、苦しみのあまりマージャンもパチンコも卒業したと云う。

受動喫煙が話題になって久しい。知人の夫は、幼子の前でもプカプカ吸う。「たばこ吸ってもいい？」の一言もなく吸いはじめた彼に、嫌煙を素直に伝えたいと思うのだが…人間関係は壊したくない。彼の健康も気がかりだ。

喫煙マナーとは何だろう。

煙はどこまで飛んでいくんだろう。

編集後記

ひたちなか市男女共同参画啓発紙

かがやく

ハーモニーひたちなか

第25号

2018.9発行

編集/発行

ハーモニーひたちなか
ひたちなか市女性生活課

ハーモニーひたちなか20周年を迎えて



▲男女共同参画フェスタの様子（'03年～'07年）



▲茨城県ハーモニー功労賞を受賞して



▲'17/12/11 ハーモニー研修会（つくば市）



▲ハーモニーフェスタ2017



▲'17/1/29 勝田マラソンボランティア

市・市民・事業者が一体となつて男女共同参画に関する取組を推進するため、ひたちなか市では、平成15年に「ひたちなか市男女共同参画推進条例」を施行し、様々な事業を行っています。

「ハーモニーひたちなか」は男女共同参画社会の実現に向けて平成10年に発起人会（6人）を5回開き、市報で加入団体を募りました。その後19団体で設立準備委員会を6回開いたのち、平成11年3月に設立され、今年で20周年を迎えます。

事業の中で、「ハーモニーフェスタ」は、産業界交流フェアと同時に開催し、多くの市民に啓発を行っています。「ハーモニーひたちなかフォーラム」は講演会と男女共同参画に関する表彰式を行っています。その他にも男女共同参画啓発紙「かがやく」を発行するなど、このような事業を市と協働で行っています。

会員研修会として県内市町村の女性団体との交流会や施設見学、市のふれあい講座を受講するなど、男女共同参画に関する知識を深めています。平成22年にこれまでの活動が認められ、茨城県から男女共同参画の推進に功績のあった団体等に贈られる「ハーモニー功労賞」を受賞しました。

「ハーモニーひたちなか」20周年記念研修会

～ 設立までの経緯と未来に向けて ～

初代会長の保田禮子さんから講話をいただいた。資料の年表を基に「ハーモニー」設立の43年前に遡り、1975年第1回世界女性会議から話を始められた。

ひたちなか市では「女性プラン担当」が設置され、講師はその策定委員長を市から任命された。公募で選ばれた市民を含め計24名が熱い想いで策定に関わった。

1995年北京で第4回世界女性会議が開かれ、世界から5万人（日本から約5千人）が集まった。ひたちなか市からは5人が参加した。テーマは様々であったがDV問題が多く各国のDVの現実を知らされたとのこと。



男女共同参画講座

私が起業して得たもの 10年の歩みとこれから ～足つぼマッサージでセルフケア～



講師は2009年に自宅で足つぼサロンを開業してから、患者を施術することで生まれてきた疑問を基に、「足の裏、身体全体の血液・リンパの流れ、骨の構造」と学びを深め、震災を経てホリスティック医学にたどり着いた。

ホリスティックとは「人間を丸ごと全体で見る医学」で、現在癌治療でも目覚ましい成果をあげている治療法の一つだが、「病気でない＝健康」と捉えるのではなく、心身・周りの環境など人に関わる『命の営み』全体が、すこやかであることを目指す医療である。特徴的なのは①患者本人の持っている自然治癒力を高める ②様々な治療法を統合し、最適な方法でその都度治療する ③病を持つ自分の本質に気づき、意識を昇華することに力を入れている総合医療の考え方である。

講師もこの立場から様々な患者の訴えに応えてきた。

この北京会議参加が刺激となり、日本各地で女性運動の転換期を迎えた。ひたちなか市では1996年に前述の「ひたちなか市女性プラン」が建議され、1997年「ひたちなか市男女共同参画プラン」が制定された。

「ハーモニーひたちなか」は1999年に設立され、ひたちなか市と協働で様々な事業を行ってきている。

講師は最後にひたちなか市第3次男女共同参画計画について述べ、女性として人間として恥ずかしくないような行動をしていってほしい。過去の積み重ねを踏まえ、未来に繋げてほしいと話された。

日にち 6月19日
ところ 男女共同参画センター

コメント

20周年に寄せて

顧問 松本 由美子

法律や制度は進んできましたが、男女共同参画が進んでいないという現状も見え隠れします。男女の働き方、DV、セクハラ、児童買春問題など課題は山積みです。より一層市との協働をはかり、ハーモニーひたちなかが率先して真の男女共同参画社会の実現に向けた取り組みをしていくことが重要であると思われま

日にち 5月28日
ところ 男女共同参画センター
講師 セラピスト 安 朋子さん
オンブラーージュ・モコモコ代表

また、誰でも自分の家庭やどこでもできるようと、今回の足つぼ施術のような技術のシェアにも努めている。

後半のセルフケア講座では、「安定した自分になる」と銘打って、自己治癒力、ここでは恒常性を司る自律神経とホルモンを整える方法を、文字通り手取り足取り丁寧に教えてくれた。

まず腎臓から尿道までに滞った老廃物を流すデトックス⇒生きる本能である自律神経を整える施術⇒感情と密接につながっているホルモンの調整と続いた。

明るくエネルギーに溢れた講師の話聞きながら、参加者はリラックスしてセルフケアに励んだ。20代、30代から70代と幅広い年代の方が参加。「生き方を再考するきっかけとなった」「家族にやってあげたい」「とても勉強になった」と、大変好評の企画だった。



ハーモニーひたちなか総会開催

日にち 5月14日
ところ 男女共同参画センター



構成13団体から34名の出席により総会が開かれた。菅原佳江会長に続いて市民生活部副部長に挨拶をいただき、職員紹介を経て議事へと進んだ。事業と決算報告及び今年度の事業計画と予算が承認された。

議事終了後、会員の萬代説子さんの講話「ハーモニーフライント いばらき ～女性の海外派遣事業から～」をお聞きした。

女性を海外に派遣し地域で男女共同参画社会推進の核となる人材を育成する。茨城県はこの事業を昭和57年から始め、その当時は100名を超える応募者がいた。

自国の行政が支援することで単なる観光ではなく、訪問国の行政に入っていけるという特色がある。訪問先での研修には県の担当部署である女性青少年課の職員が同行した。

旅立つ事前事後の研修を含めて県が一定額の費用負担をした時代と、この事業に参加した女性たちの団体「女性のつばさ」が中心となり企画実行した時代が数年あった。その後再び県主導のものに戻ったが、平成29年で一旦この事業は終了している。

講師は平成26年にこの研修事業に参加し、現在はハーモニーひたちなかの構成団体WINGの会長である。WINGは

ハーモニーひたちなか研修会

What is “DET”?

障害平等研修 (DET) 開催

先生は、ご自身の車椅子生活を活かした研究をもとに国内外問わず様々な活動をしています。そのひとつに県内唯一のDETファシリテーターとして、障害という言葉が必要ない世の中になるようにと活動されています。

日本では機能的障害者（認定者）が総人口のうち7%いますが、最近では社会的障害者（うつ病・ひきこもり）の方が課題となっています。

参加者からは「障害のとらえ方が変わった。今回の講座で厚生労働省認定事業『サポステ』（いばらき若者サポートステーション）があることを知り、近隣の社会的障害の方のご家族に伝えたい」「研修に参加することで障害についての気づきの機会となり、友人知人にも伝えたい」との感想がありました。

講座の最後に、先生は男女共同参画社会の課題である多

ひたちなか市からこの研修事業に参加した女性たちを母体とし、男女共同参画社会の推進と国際交流を主な目的としている。

自身の海外研修の話をする前に、講師は今の日本がどの位置にいるのか3つの指標で示された。世界繁栄指数では日本は23位、アジア1位のシンガポールは17位である。家事時間の1日にかかる男女差では1位のノルウェーが一番時間差が少なく、日本は男性の家事時間が極端に少ない。

平成26年の海外研修はイギリスとベルギーの2カ国。私立の小学校や寮生活の高校でスタッフの話や福祉についてパイオニア的な存在の地を訪れ細かな説明を受けた。大使館やEU欧州議会も訪問し、今の課題について学んだ。街歩きでは先進的な機器のある環境でも弱者に優しい社会の一端を見ながら、自国に取り入れたいものを数多く見つけていった。

海外研修は国際的な視野を持つリーダー育成と共に、県内の女性ネットワーク作りも目指している。研修を共にした仲間は帰国した後も交流を続け、お互いの活躍に刺激を受けながら切磋琢磨している。



日にち 2月9日
ところ ふぁみりこらぼ
講師 有賀絵里先生(茨城大学非常勤講師)

様性を認め合う社会（ダイバーシティ）の重要性を強調されました。心の不自由さを感じている方々の肩にトントンと直接触れ、こちらの意思表示をすることにより「ありがとう！」と安心感が生まれ、それぞれの存在を認め合う社会になると結ばれました。

是非、DETの研修会に参加してみたいか、ぜひ。きっと障害のとらえ方が変わります。



※DET・・・Disability Equality Training